

# 札幌市営企業調査審議会 (令和3年度第2回病院部会)

## 1 開催形態

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面による開催

## 2 開催期間（意見聴取期間）

令和3年12月7日（火）～12月21日（火）

## 3 出席委員（11名）

荒木委員、大橋委員、金子委員、河原委員、今委員、紺野委員、竹之内委員、名本委員、早坂委員、平本委員、渡辺委員

## 4 審議内容

議題1 「令和2年度決算の概要について」

議題2 「市立札幌病院中期経営計画の進捗状況について」

議題3 「市立札幌病院における新型コロナウイルス感染症への対応と一般診療の状況について」

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
荒木 委員	意見	<p>新型コロナウイルス感染症の感染者数に応じて、コロナ病床を増減しながらの医療提供に敬意を表します。</p> <p>中期計画の中では特例的ですが、赤字にならずよかったです。</p> <p>今後も状況にあわせて優先度を考慮した運営をお願いします。</p>	<p>あたたかいお言葉をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>令和2年度決算においては、感染症病床確保促進事業補助金により、必要な資金を維持することができました。</p> <p>1月に入り、オミクロン株の拡大など予断を許さない状況が続いておりますが、市保健所等と連携しながら、感染状況に応じた役割を果たしてまいります。</p>
大橋 委員	質問	<p>資料4の新型コロナウイルス感染症患者の受入による一般診療への影響について、患者数減少の背景として資料2で「不急の手術の延期」が挙げられています。こうした手術の延期によって患者の容態に深刻な問題等が発生することは無かったのでしょうか。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大時においても、緊急で手術が必要な方は、当院で対応しており、手術の延期によって患者の容態に深刻な問題等が生じた事例はありませんでした。</p>
金子 委員	意見	<p>令和2年度は新型コロナのパンデミックで大変なご苦勞だったことと思います。</p> <p>受診抑制やコロナ感染症患者さんの診療で一般患者さんの減少はやむを得ない事だったと思います。しかし、収支に大きな損失がなく何よりでした。</p> <p>次年度もコロナ禍が続く大変ですが、受診抑制された方々に対して、手遅れにならない内に、適切な受診をされるよう促してください。</p>	<p>受診抑制となった時期において、不急であると判断した手術等の治療に関しては、予約を再開した時点でお受けしています。また、専門的で緊急の対応が必要な患者さんは地域連携医療機関にご紹介しております。その患者さんも状況に応じて、当院へ逆紹介いただいている状況です。</p> <p>引き続き、当院の診療体制につきまして、ホームページを活用して広報して参ります。なお、1月4日時点では通常の外来診療体制となっております。</p>
	質問	<p>コロナ感染症の第6波に対する備え、コロナ感染症が収束した後の患者獲得、補助金が無くなった後に対する対策はいかがでしょうか。</p>	<p>1月に入り、新型コロナウイルス感染症の拡大傾向が続いておりますが、市保健所等と連携しながら、必要な受入病床を確保してまいります。</p> <p>また、国の補助金による支援の終了後を見据えて、紹介患者数や救急車等搬送件数の増など、入院患者の増加に向けた取組も進めてまいります。</p>

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
	質問 (議題2)	コロナ感染症が原因と思われますが、五年計画に部分的に遅れがある様です。計画の変更も視野に入れるべきかと思えます。いかがでしょうか。	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、特に入院に関する指標については、中期経営計画の目標を達成できていない状況にあります。</p> <p>また、高額薬品の増加等により、医業収益に占める材料費の割合も上昇傾向にあるなど、計画策定時から状況の変化が生じています。</p> <p>そこで、まずは計画期間の後半となる令和4年度から令和6年度の収支見直しについて、これらの状況変化を踏まえた見直しを行い、今後の方向性の検討につなげてまいりたいと考えております。</p>
河原 委員	意見	各資料を目にして、昨年から今年にかけて、医療関係の方々は、新型コロナウイルス感染症への対応に、大変なご尽力をいただいていること、よく伝わってきました。	あたたかいお言葉をいただき、誠にありがとうございます。皆様のお声を励みにして、今後とも診療にあたってまいります。
	意見 (議題3)	資料4で「新型コロナウイルス感染症の状況は今後も予断を許さないところ～保健所等と連携し…」とありますが。このワクチン接種等の様々な協力も果たされていると察します。この文章に「予防」という表現も入れているのではと感じました。	<p>新型コロナウイルス感染症の対応においては、感染予防の取組も重要であると感じています。</p> <p>引き続き、ワクチン接種への協力など感染予防に関する取組も行うとともに、病院部会の資料への反映についても検討してまいります。</p>
	意見	様々な諸事情があるとは思いますが、国内でワクチン接種の時期が、もう少し早く進んでいたら減少は早まったのかなど、疑問です。今後も予期せぬ事態の対応や課題もあると思えます。	<p>第5波までの傾向をみると、ワクチン接種による感染及び重症化を予防する効果は大きかったものと考えています。</p> <p>1月に入り、オミクロン株の拡大が続いておりますが、今後もこのような変異株の動向に着目し、データ分析に基づいた対応が迅速にできるように体制を強化いたします。</p>
紺野 委員	意見 (議題2)	資料3-1 今後の新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、基本目標の達成・改善に努めていただきたいと思います。	中長期的な経営改善に向けて、新型コロナウイルス感染症への対応を行いながらも、できる限り中期経営計画の取組を進め、診療収益の確保に努めてまいります。

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
竹之内 委員	意見	<p>資料4を見まして、新型コロナウイルス感染が広がったこの2年近く、市立病院の皆様が大変なご苦勞をされてきたことを改めて認識いたしました。皆様に改めて感謝申し上げます。また、資料2によると、この厳しい状況の中、経営を維持できるだけの補助金が出ていたとのことと安心していただきました。</p> <p>新型コロナウイルス感染は、今は小康状態とはいえ、予断を許さない状況であり、市立病院の皆様におかれましては、再拡大への備えを含め、引き続きのご尽力をお願い申し上げます。</p>	<p>あたたかいお言葉をいただき、誠にありがとうございます。診療収益は減収となっていますが、感染症病床確保促進事業補助金による補填により、必要な資金は維持できている状況です。</p> <p>1月に入り、オミクロン株の拡大傾向が続くなど予断を許さない状況となっておりますが、市保健所等と連携しながら、当院が担うべき役割を果たしてまいります。</p>
名本 委員	質問 (議題1) (議題2)	<p>令和元年～2年の間で入院患者が減少した理由は理解できますが、同期間で外来患者が年間約4万7千人、15.6%も減少した主な理由を教えてください。</p> <p>また、市立病院における外来患者の減少率は他の基幹病院と比較してどうなのか、今後コロナが沈静化した場合、回復する可能性があるのかどうか教えてください。</p> <p>なお、資料3-1の3ページに記述されている外来患者が減少した理由として挙げられている「入院前外来受診の減少」や「長期の処方」とは具体的にどのようなことなのか教えてください。</p> <p>また、今後コロナの感染が長期化した場合、外来患者に対してどのような対応が考えられるのか教えてください。</p>	<p>外来患者数の減少について、次に挙げますとおり、新型コロナウイルス感染症対応等に関連する複数の理由があったと考えています。</p> <p>①入院制限に伴い外来新患の受入れを休止したこと</p> <p>②入院制限に伴い他院からの紹介が抑制されたこと</p> <p>③入院制限に伴い救急外来を停止したこと</p> <p>④感染拡大防止のため通常時よりも受診間隔を空ける対応をしたこと(厚生労働省から「新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、慢性疾患等を有する定期受診患者等について、当該慢性疾患等に対する医薬品が必要な場合、感染源と接する機会を少なくするため、一般的に、長期投与によって、なるべく受診間隔を空けるよう努めることが原則」とする考え方が示されています。)</p> <p>⑤感染流行による一般的な受診控えの影響を受けたこと(厚生労働省発表の2020年度の医療費(速報値)では、前年度比「入院」は3.4%減、「入院外」は4.4%減となっています。)</p>

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
			<p>全国自治体病院協議会が令和3年6月に実施した病院運営実態分析調査によると、全国の自治体病院の平均外来患者数は10.4%減少しています。(令和元年6月と令和2年6月の実績比較)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の沈静化後の外来運営について、入院患者数の回復のために新規の紹介患者数の回復は不可欠ですが、同時に逆紹介を推進し延べ外来患者数を増大させないことが重要と考えています。</p> <p>資料3-1の3ページの記載について、「入院前外来受診の減少」とは、入院自体が減少したことに伴い、入院前の事前検査等のための外来受診が減少したことを意味しています。また、「長期の処方」とは、感染リスク抑制のため通常時よりも受診間隔を空ける対応をしたことを意味しています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症への外来における対応として、発熱等のある方に診察に先立ちPCR検査を実施する「発熱者一次診察室」の設置、来院による感染リスクが特に高い方等を対象とする「電話診療」の実施、外来待合の混雑緩和を図る「患者案内表示システム」の導入等の取組を行っています。</p>
	<p>質問 (議題1)</p>	<p>令和元年～2年の間で延入院患者数が66.9%に、新入院患者数が69.4%に、延外来患者数が84.4%に減少しているにもかかわらず同期間で診療収益が82.3%の減少に留まっている理由を教えてください。</p> <p>今後、コロナが沈静化し入院患者数等が回復することによって、診療収益も持ち直す可能性があると考えてよろしいでしょうか。</p> <p>また、年間延入院患者数が30.6%、年間外来患者数が15.6%減少してい</p>	<p>診療収益の減少幅につきましては、新型コロナウイルス感染症の特例として診療報酬の加算があったこと、急性期以外の患者の減少により、外来化学療法など高度な治療を必要とする患者の割合が高くなったことによる単価の増が要因であったと考えています。</p> <p>今後につきましては、新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、地域の医療機関との連携を緊密にし、特に入院患者の確保に向けて取り組んでまいります。患者</p>

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
		<p>るのにもかかわらず経常支出額が同期間で僅か2.5%の減少にとどまっている理由を教えてください。</p>	<p>数の回復により、診療収益についても増収が見込まれるものと考えます。</p> <p>経常支出の減少幅につきましては、職員給与費や委託費のような固定費については患者数減の影響がほとんどないこと、また、先に記載しました高度な治療を必要とする患者の割合が高くなったことに伴い、材料費における患者一人当たりの単価が上昇したことが要因であると考えています。</p>
	<p>質問 (議題1)</p>	<p>特別利益と特別損失の6.9億円が支給された新型コロナウイルス感染症対応従事者とはどのような方で、どのくらいの人数なのでしょう？</p> <p>また支給を受けた方々は支給内容についてどのように受け止めているのでしょうか。</p>	<p>市立札幌病院の職員、市立札幌病院で働く委託業者の職員を支給対象としており、延べ3,455人が対象となりました。</p> <p>先行きが不透明な状況下にあつて、精神的・肉体的な負担を強いられている病院勤務の職員をあらためて慰労し、受入病床確保に必要な人員を引き続き確保することを目的に慰労金を支給したところであり、最前線でコロナ対応にあたっている医師や看護師等にとって、大きな励みとなりました。</p>
	<p>意見 (議題2)</p>	<p>「市民の命を守るため他の医療機関からの受入要請を断らない医療を実施する」ことを基本目標としているならば地域の医療機関を支える「市民の最後の砦」として先導的にコロナに影響されない一般救急患者の十分な受け入れ態勢の確立や手術体制の強化、既存病床の有効利用等を図る必要があると考えます。</p>	<p>これまで、新型コロナウイルス感染症への対応を行いながらも、出来る限り一般診療も提供できるよう努めてきましたが、感染力が非常に高い感染症への対応では、人員体制及び感染管理の両面において、一つの病院で対応することは困難な状況です。</p> <p>今後も、全市的な医療提供体制における各医療機関の機能等を踏まえた役割分担の中で、当院が担うべき役割を果たすとともに、病床の有効活用等を図ることで、できる限り多くの一般患者を受け入れてまいります。</p>
	<p>意見 (議題2)</p>	<p>「地域の医療機関と緊密な連携体制を構築する」ことを基本目標としているならば地域の基幹病院としてコロナ感染時だからこそ困窮している一般患者の受入体制を強化するとともに敏速な対応を図る必要があると考えます。特にコロナワクチンの接種時に見られたような「かかりつけ医」の不足や地</p>	<p>当院は、新型コロナウイルス感染症に係る全市的な医療提供体制の中で、重症度の高い患者や他院での受け入れが難しい患者の入院治療の役割を主に担ってきました。</p> <p>ワクチン接種についても、市内全体の役割分担の中で、引き続き実施してまいります。</p>

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
		域医療機関のスタッフ・設備不足等を考えると市立病院の積極的な対応が望まれます。	
	質問 (議題3)	令和2年1月～3年11月までの市立病院におけるコロナ感染症の入院患者数(1,487人)は同期間における市全体のコロナ入院患者の何割を占めていますか。今後オミクロン株の拡大に先駆けて市立病院独自の自宅療養者に対する診療体制の強化や入院待機施設の整備、検査の充実等をどのようにお考えでしょうか。	当院における新型コロナウイルス感染症による入院患者数(1,487人)は、市内の入院患者数の約2割となっています。 1月に入り、オミクロン株の拡大傾向が続くなど予断を許さない状況となっていますが、市保健所等と連携しながら、当院が担うべき役割を果たしてまいります。
早坂委員	意見	資料2、資料3-1、資料3-2から、第一線で新型コロナウイルス感染症と闘って来られた状況が理解できます。 入院、外来での制限や受け入れ休止など、やむを得ない措置を講じながら一般診療との両立を図ってこられたことに、敬意を表するとともに感謝申し上げます。	あたたかいお言葉をいただき、誠にありがとうございます。皆様のお声を励みにして、今後とも診療にあたってまいります。
	意見 (議題2)	資料3-2 外来収益で⑥長期処方患者率が増加しています。新型コロナウイルス感染症の影響によることも理解できますが、中期経営計画の基本目標にもありますように、「かかりつけ医」への転医等、患者への理解や市中医療機関との更なる連携強化を図っていただきたいと思います。	逆紹介に関する指標である「長期処方患者率」が前年よりも増加とした一方、「逆紹介率」は前年よりも向上しております。(逆紹介率 元年度 112.3% 2年度 129.7%) 新型コロナウイルス感染症の影響下の外来運営であったこともあり、指標と取組結果に不整合が見られましたが、当該指標により取組の進捗管理をしている逆紹介の取組そのものは継続できております。 今後も状態の安定した患者については地域の医療機関への紹介を推進し、地域連携の強化を図ってまいります。
平本委員	質問	資料2の1ページ目の下の方に書かれている入院および外来患者数の減少の件、および資料4のCOVID診療と一般診療の件です。 資料2には「新型コロナウイルス感	COVID-19 陽性患者の受入れと共に、一般患者の受け入れも最大限行っており、当院で対応すべき患者は積極的に受け入れておりますが、マンパワーの問題等のため、他院で対応いただくこともありました。

委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
		<p>染症患者受け入れのため、一般病床の縮小や不急の手術の延期、新患の受け入れ休止などを行ったことによるものです」とありますが、COVID-19 患者を受け入れたことで、それ以外の疾病や怪我の患者への対応が出来なかった、あるいは十分に行えなかったという事例は何件くらいあったのでしょうか。</p> <p>と申すのは、本来であれば、COVID-19 であろうと、他の疾病・怪我であろうと、救うべき命の重さには差が無いはずだろうからです。昨年来の COVID-19 によって、本来ならば助かるべき命が助からなかったとすると、それはそれで大きな問題であるように思います。</p> <p>慶応大学教授の小林慶一郎氏は、「『コロナ医療で追加的な拡大をすることにより追加的に救える人命の数』と、そのために一般医療が制限されることで、『一般医療を追加的に制限することにより追加的に失われる人命の数』とが均等になるようにすべきだと考える。人命に優劣はないのだから、コロナの患者 1 人を助けることと一般医療の患者 1 人を助けることが釣り合うように、一般医療の制限の強さを定めることが望ましいはずだ。」と述べています（出所：日本経済新聞, 10 月 19 日朝刊「経済教室」）。</p> <p>批判的な意味でのご質問では決して無く、こうした観点で考えた場合、今後の課題としてどのようなことが考えられ、どのような対策が想定されるかご教示ください。</p>	<p>一般診療の制限が必要になった際には、お断りに至る前にできる限り事前に診療体制について広報を行うこととし、連携医療機関への F A X 送信、札幌市医師会への連絡、当院ホームページの更新等を行いました。救急医療につきましても、市保健所及び消防局との連携を密にし、救急車による搬送等も混乱が生じないよう対応いたしました。</p> <p>また、感染状況が一時的に落ち着き、一般診療体制を拡大できることとなった際には、同様の手法により情報提供を行いました。診療科によっては、治療の特性上、緊急性がある場合や継続的な治療が不可欠な場合などには、あらかじめ連携医療機関に積極的に患者を紹介しておりました。</p> <p>当院での治療を希望されたものの、当院で対応できなかった一般診療の患者数は一定数あったと推察されますが、あらかじめ広報して患者さんや地域連携医療機関のご協力を得て対応してきたため、具体的な件数をお示しすることは難しい状況です。</p> <p>少なくとも当院のみで一般診療・COVID-19 の診療を行うことは困難であり、どちらの疾患や命に優劣をつけるということではなく、市保健所との連携のもと、それぞれの医療機関が持つ役割を十分に果たしていくことで今回のような事態に対応していくことが可能になると考えます。</p> <p>これまでに幾度もの感染拡大の波を経験してきましたが、医療提供体制が破綻せずに維持できているのは、このような役割分担が機能したものと認識しています。</p> <p>COVID-19 に加えて、今後発生し得る新たな感染症にも十分に対応していくためには、平時からの体制整備が課題であり、計画的な人材育成や、継続的な院内感染対策の徹底等が重要と考えています。</p>



委員	区分	質問・意見	事務局からの回答
	意見 (議題1)	資料2の3ページでは、コロナ関連の補助金・負担金収入により資本収支が7.5億円増との記述があります。企業債と補助金・負担金とは、同じ収入であっても少し性質が異なる(企業債は償還が必要、補助金・負担金は不要)気がしました。	地方公営企業法施行規則第45条別記様式 of 予算様式第4条において、建物や医療器械などの整備費である「資本的支出」に対応する財源は、企業債や補助金・負担金など「資本的収入」という区分で整理されております。 これら同じ資本的収入という区分の中で、償還の有無等性質に違いがあることは、御指摘のとおりです。
	意見	前回にも同じことを申しましたが、COVID-19 という未知の感染症との戦いという極度の緊張感のなかで、市民のための「最後のとりで」として市立札幌病院が存在し、そこでさまざまな高度医療サービスが絶えず提供され続けていることを、一市民としてとても誇らしく感じております。本当にありがとうございます。	あたたかいお言葉をいただき、誠にありがとうございます。 1月に入り、オミクロン株の拡大など予断を許さない状況が続いておりますが、市保健所等と連携しながら、感染症への対応と高度急性期医療の提供の両立を図ってまいります。
渡辺 委員	質問 (議題2)	基本目標3 感染管理認定看護師は何人いらっしゃいますか。育成状況についても教えてください。	感染管理認定看護師は3名います。市立札幌病院の役割を果たし続けるため、職員の入れ替わりも考慮して新たな認定看護師を育成中です(認定審査予定者1名、認定看護師教育機関入学予定者1名)。
	質問 (議題2)	基本目標5 手話通訳の要請はありますか。他病院ですが、ご家族とともに説明を受ける時にご苦勞をされている様子を見て、あらためて必要性を感じました。	当院では専任の手話通訳者(会計年度任用職員)を2名配置し、診察・検査など様々な場面で年間4千件前後の手話通訳に対応しています。 利用にあたっては、FAXや電子メールによる事前連絡をお願いしていますが、診療時間内は臨時に必要な場合にも対応しております。